

研究タイトル:

Charles S. Peirce と現代科学哲学の研究



氏名:	Jimmy Aames ジミー エイムズ	E-mail:	j.aames@maizuru-ct.ac.jp
職名:	助教	学位:	博士(人間科学)
所属学会・協会:	アメリカ哲学フォーラム, 科学基礎論学会, 日本科学史学会		
キーワード:	Charles S. Peirce, アメリカ哲学, プラグマティズム, 物理学の哲学, 科学哲学, 科学史		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学 ・数理論理学 		

研究内容: Charles S. Peirce と現代科学哲学の研究

私の専門は哲学で、今までは主に 19 世紀アメリカの哲学者・論理学者・数学者 Charles S. Peirce (チャールズ・S・パー
ス) の哲学を研究してきました。Peirce といえば「プラグマティズム」と呼ばれる思想運動や記号論の創始者として知ら
れていますが、私は特に、彼の哲学全体の基盤を成すといえる「カテゴリー論」に関心を持っており、Peirce のカテゴ
リ論を軸として彼の哲学を統一的・体系的に理解することを目指してきました。

また、Peirce に関する哲学史的な研究だけでなく、Peirce をはじめとした様々な哲学者の知見を活かして、現代の科学
哲学の問題にアプローチすることにも関心を持っています。特に私が長年取り組んでいるテーマの一つは、パター
ンの存在論です。パターンというのは、私たちの日常の隅々に存在する、ごくありふれたものです。「手に持った物体を離
すと地面に落ちる」というのはパターンですし、人の顔を視覚的に認識するというのもパターン認識の一例です。しかし
パターンというのは、よく考えてみると不思議な存在です。それは通常の意味での「モノ」ではなく、複数のモノや出来
事が示す規則性です。そうでありながら、パターンの中には、それを識別することによって、未来の現象を高い蓋然性
で正しく予測することを可能にしてくれるようなものも存在します。自然法則や人の性格などがその好例です。このよ
うに「正しい予測を導いてくれる」パターンは、ある意味で「リアル」であると考えたくなります。しかし、「モノ」ではないにも
かかわらず「リアル」であるというのはどういうことでしょうか？パターンというのは一体どういう存在なのでしょう
か？私は、Peirce の哲学の観点からこうした問いに答えることを試みてきました。博士論文では、Peirce と、現代アメリカの哲
学者 Daniel Dennett (ダニエル・デネット) の理論をもとに、ある種の自律的なパターン(その構成要素からある程度自
律的に振る舞うパターン)を取り上げ、その性質を論じました。

「パターン」の概念や、関連する「創発」(emergence)の概念は、いわゆる複雑系や自己組織化現象の研究が進展し、
また機械学習の新たな手法が次々と開発されている近年、新たな意義を獲得しつつあります。しかし、これらの概念に
確固たる哲学的基盤を与えようとするこれまでの試みは成功しているとは言えません。私は、Peirce の哲学的知見を
援用することでこうした問題に取り組み、また同時に、現代科学の成果に照らして Peirce の哲学体系を刷新すること
を目指して研究しています。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

エ
ネ
ル
ギ
ー

環
境

材
料

生
産
・
製
造

計
測
・
制
御

情
報
・
通
信

防
災
・
減
災

医
療
福
祉
・
バ
イ
オ

文
化
・
都
市
計
画